

令和7年 第10回八雲町議会全員協議会会議録

令和7年10月27日 議員控室

○協議事項

- (1) 初議会の招集予定日について
- (2) 初議会の議事等進行予定について
- (3) 議長及び副議長の立起表明

○出席議員（13名）

大久保 建 一 君	宮 本 雅 晴 君
赤 井 睦 美 君	三 澤 公 雄 君
横 田 喜世志 君	黒 島 竹 満 君
関 口 正 博 君	牧 野 仁 君
斎 藤 實 君	倉 地 清 子 君
寺 田 広 樹 君	小 西 雄 一 君
水 野 博 美 君	

○欠席議員（1名）

安 藤 辰 行 君

○出席説明員（0名）

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
庶務係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・座長挨拶

○議会事務局長（野口義人君） おはようございます。

定刻より少し早いですが、皆さんお集まりいただきましたので、全員協議会を始めさせていただきますと思います。

皆さんの任期は、令和7年10月23日から既に始まってございますが、改めてよろしくお願ひ申し上げます。

本日の会議につきましては、初議会開催に関する協議・調整をお願いしたいと思ひます。

それでは、本日の会議の座長の選出でございますが、全員協議会規程第4条第1項但し書の規定により、年長議員が議事運営を行うこととなっておりますので、齋藤議員に座長をお願いいたします。

齋藤議員につきましては、座長席へお願いいたします。

○座長（齋藤 實君） ただいまご指名ありました、年長議員の齋藤でございます。

最初に自己紹介しておきます。齋藤實と申します。みのると書いて、まことと呼んでおりますので、よろしくお願ひしたいと思います。ただいま六期目でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

◎ 全議員自己紹介

○座長（齋藤 實君） 本日の協議会に安藤議員、欠席でございます。

ただ今から全員協議会を開会いたします。会議日程に沿って進めてまいります。

まず、議員全員から自己紹介をしていただきます。赤井議員からお願いいたします。

○議員（赤井睦美君） おはようございます。赤井睦美と申します。五期目になります。

町民に約束してきましたけれども、議会改革ずいぶん進んできたと思ひますが、もっともっと進めていって、町民の役に立つ議会を目指していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○議員（大久保健一君） 四期目になります。大久保健一です。建一という字は人偏がないので、よく人でなしの建一と呼ばれていますが、覚えてください。お願ひします。

今回3人の新人が入って、3人の新人が入るというのは、私と牧野さんと宮本さんが入った時以来のことなので、大変心強く思っています。新人同様、新人の気持ちに戻りまして頑張りたくと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

○議員（倉地清子君） おはようございます。私は倉地清子と申します。

二期目に入りましたけれども、私は一期目、新人1人でしたので心細い中でしたが、いろんな議員の皆様を支えられて一期を終わらせてもらうことができました。今回、3人の新人の方と私も含めて一緒に改めて、経験はしておりますが新人のつもりでまたやっていきたいと思ひますので、どうかよろしくお願ひします。

事務局の皆様にも、これからお世話になると思ひますのでよろしくお願ひします。

○議員（黒島竹満君） 皆さん、おはようございます。黒島竹満と言ひます。ちくまんという字を書いて、竹満と言ひます。私は今回、五期目になります。

21年の選挙では、5人の新人と一緒に挑戦をして、5人当選をさせていただきました。残念ながら1人早く、今心半ばにして岡島議員が先にあの世に行ってしまいました。残る議員4人が今いて、一緒にこの4年間頑張ってきております。ぜひ今後ともよろしく願いをして、自己紹介とさせていただきます。ありがとうございます。

○議員（小西雄一君） 皆さんおはようございます。こう見えて新人の小西でございます。小西雄一と申します。

私は、今回議員のなり手講習会ということで、そちらの方がきっかけで挑戦をさせていただきました。なんとか皆様の協力を得て、議員になったわけなので、この4年間皆さんと一緒に、町のために働いてまいりたいと思っておりますので、何とぞよろしく願い申し上げます。よろしくお願ひします。

○座長（斎藤 實君） 関口さんから。

○議員（関口正博君） おはようございます。三期目、関口正博です。これまでは、僕が一番若かったんですよ。ところが、今回三人新人が入ってきてしまって、水野さんは年上なだけけど。身も心も、なんなら整形してまでも一番若々しい議員であり続けたいなというふうに僕は思っております。14人みんなで力を合わせて、強い議会で町民支援をされる議会を目指して、馬車馬のように働いていく覚悟でありますので、どうか皆さんよろしくお願ひいたします。

○議員（寺田広樹君） 新人の寺田広樹です。よろしくお願ひします。

まず、しっかり挨拶のできる議員を目指してます。今回直接選挙で、皆さんが町民が選んでくれたっていうのを大事にしつつ、新人らしく、新しい風をなんとか吹き込みたいという思いを持ちながら、邁進していくつもりでございます。よろしくお願ひ致します。

○議員（牧野 仁君） おはようございます。四期目の牧野仁です。

私は皆さんとともに、今後仲良く皆さんで議事を前に進めていきたいと思ひます。一つよろしくお願ひ致します。

○議員（三澤公雄君） おはようございます。三澤公雄です。合併時から議員をやってまして、六期目になるんですね。ベテランという立場になりますけれども、これまで同様、誰よりも青臭く、泥臭く、新人の気持ちを忘れずにやってきたつもりですので、この会場にいる何人かは、そのことを見てくれてると思ひます。その姿勢は変えずにやっていきます。

だけど、馬車馬のようにやりますけれども、ワークライフバランスは大事なので、皆さんのワークライフバランスは大事にすることを心がけてやっていくつもりですので、チーム議会を作るためにどんな泥をかぶってもやっていきますので、よろしくお願ひいたします。

○議員（水野博美君） おはようございます。新人の水野博美です。新人という割にはちょっと年いってますが、皆様にいろいろ学ばせていただきながら、町民の皆様の役に立てるように頑張っていくので、どうぞよろしくお願ひ致します。

○議員（宮本雅晴君） 宮本雅晴です。今回、四期目になります。私なりに、もっともっと八雲町を元気な町にしていきたいなと思ひまして、また4年間頑張っていくなと思ひしておりますので、よろしくお願ひします。

○議員（横田喜世志君） おはようございます。五期目になります、横田喜世志と言ひます。

私、共産党員として活動することと、町民の声を議会にいかにつけるかということに、今回4年間頑張らせていただこうと思ひしております。よろしくお願ひいたします。

○座長（斎藤 實君） 議会のほうは終わりましたので、事務局のほうもお願いいたします。

○議会事務局長（野口義人君） すみません。時間をとっていただきまして、ありがとうございます。

議会事務局長の野口です。去年の4月に局長職拝命しまして、1年7か月が経過しました。皆さんの任期は始まったばかりですから4年間ございますが、私の任期はあと残り1年5カ月ということになりましたので、新しい議会運営が安定運営できるよう、サポートしていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

○議会事務局次長（藤原悟史君） 事務局次長の藤原といたします。どうぞよろしくお願いいたします。私も今年4月に事務局の方へ異動してまいりまして、まだ半年ぐらしか経っていません、新人みたいなものなので、皆さんと一緒に勉強しながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 事務局議事係長、千代貴大と申します。引き続き、執務のほうに邁進してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議会事務局会計年度任用職員（佐々木真智子君） 議会事務局の会計年度任用職員として、勤務しております。佐々木真智子と申します。よろしくお願いいたします。

私も4月からこちらに来たばかりで、まだまだ慣れないことも沢山ありますが、丁寧な仕事を心がけて、会議録で間違いのないように、議員さんたちのお力に少しでもなれるように精いっぱい頑張りますので、これからよろしくお願いいたします。

◎ 協議事項

○座長（斎藤 實君） 自己紹介が終わりましたので、協議事項に入ります。

初議会の招集予定日については、先の前議会運営委員会関係者会議で協議した結果、記載のとおり11月11日火曜日としたいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

（異議なしの声）

○座長（斎藤 實君） ご異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

初議会の議事等進行予定について、事務局より説明願います。

○議会事務局長（野口義人君） 座長、局長。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（野口義人君） それでは私の方から、初議会の議事等進行予定表について、資料1をご覧くださいと思います。

まず、開会前になりますけれども、仮議席のほうに着席をしていただきたいと思っております。仮議席につきましても、この後の会派代表者会議で調整していただきます。初議会のときだけは、5分前行動で9時55分までには着席をしていただきたいと思っております。ただし、この日は全員協議会1回目を午前9時30分から設定する予定でございます。

次に、臨時議長の選出を行います。臨時議長につきましても、本日同様、年長の議員が臨時議長を務めることとなりますので、斎藤議員に進行をお願いすることとなります。

続きまして、自席から各議員の自己紹介をお願いいたします。その後、本会議が始まりますが、臨時議長による議事で仮議席の指定と、その後、議長選挙を行います。議長選挙につきましては、投票の方法で行いたいと思います。

次のページに、正副議長選挙の投票方法を図で示してございます。

当日は、私の方から皆さんのお名前を読み上げますので、その順番でこの図のように向かって右側のほうから、いわゆる廊下側の方から入り、演壇のところに投票箱がありますので、そこに投票をしていただいて、左側から自席に戻っていただくというやり方になりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、議長が決まりましたら、新議長の就任挨拶を演壇で行います。その後、臨時議長と議長が交代して、新議長による日程が配布され、議長による議事になります。議長による議事につきましては、最初に議席の指定を行います。仮議席がそのまま議席になる予定でございます。

次に、会議録署名議員の指名、会期の決定、諸般の報告を終えたあと、日程第4になりますが、副議長選挙を行います。選挙の投票方法は、議長選挙と同様でございます。

副議長選挙終了後、副議長就任の挨拶を演壇で行い、そのあとに、町長から就任挨拶を行うということで聞いてございます。新しい町長の就任より、所信表明は12月定例会の予定と聞いてございます。

その後休憩して、全員協議会を開催いたしまして、本日の会派代表者会議で協議いたしますが、常任委員会等々の議会人事についての調整と申しますか、その時は当日は確認という作業になるかと思っておりますが、確認をしていただき、そのほかに町のほうから選任される選挙管理委員および補充員について、協議していただきます。その後、本会議を再開して、常任委員及び議会運営委員の選任を行うこととなります。

次に、議長の常任委員辞任ということでございます。これは、参考資料の2ページ目に常任委員の選任についての(4)で、まずは全員が常任委員になるということになります。そして、八雲町議会では、議長は常任委員を辞任するということを通例にしてございますので、今回につきましても、このような取り扱いをしたいと思っております。そして、その辞任につきましては、副議長の議事によって、議長の常任委員の辞任を承認することとなります。その後、議長による議事に戻りまして、各委員会の招集通知をいたします。

次に、裏側になりますが、休憩中に各委員会を開催していただきます。

委員会の開催につきましては、総務経済常任委員会、文教厚生常任委員会、議会広報広聴常任委員会の順で、第二委員会室で開催していただきます。その後、議会運営委員会を第二委員会室で開催することで考えてございます。

各委員会では、正副委員長互選と、閉会中の継続調査事項を決定していただきたいと思っております。閉会中の継続調査における事項についてですが、初議会から12月定例会までの間で、常任委員会を開催するためには、継続調査の申し出が必要となりますので、このときに決定していただきたいと思っておりますが、まずは、おおむね大枠で決定をしていただき、その後、委員会で重点項目等をピックアップしていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。委員会終了後は本会議を再開し、各常任委員会、議会運営委員会の正副委員長の互選の結果を報告いたします。

次に、渡島廃棄物処理広域連合議会議員、南部桧山衛生処理組合議会議員、選挙管理委員及び補充員の選挙3件を行いまして、それが終わりましたら、監査委員、副町長の選任同意を行う予定で考えております。

最後に、各常任委員会及び議会運営委員会の閉会中の継続調査の申し出の関係を議題といたします。以上で本会議は、終了ということになります。

閉会後につきましては、そのまま議場において、町特別職と議会議員等の集合写真撮影を行います。そのほかに、各常任委員会ごとの写真撮影を第一委員会室で行い、その後に全員協議会第2回目となりますが、本会議終了後に先般、新聞で記事出ておりましたが、庁舎建築事業等についての説明報告を受ける予定となっております。最後に議員会の総会を議員控室で予定してございます。

以上が、初議会の議事等進行予定でございますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○座長（斎藤 實君） 説明が終わりました。この件について、質疑でございませんか。

○議員（大久保健一君） はい。

○座長（斎藤 實君） 大久保委員。

○議員（大久保健一君） すみません。本会議の臨時議長調製の日程第2、選挙第1号議長選挙のやり方についてちょっとお尋ねしたいんですけど、この本会議場での議長選挙の前には、議長の立起表明というのはされないということなんですか。その確認です。

○議会事務局長（野口義人君） 座長、局長。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（野口義人君） 立起表明につきましては、本日全員協議会、この中で正副議長の立候補予定者につきましては、立起表明をするという時間をとっておりますので、本会議場では、あくまでも選挙の投票というかたちだけということになりますので、ご理解いただきたいと思えます。

○議員（大久保健一君） はい。

○座長（斎藤 實君） 大久保委員。

○議員（大久保健一君） であれば、議長選挙に出る方の立起表明というのは、町民の目に触れることなく、事が進んでしまうということではよろしいでしょうか。

○議会事務局長（野口義人君） 座長、局長。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（野口義人君） この話題につきましては、先週から議員さんの方より、同等の問い合わせがございました。それで、私どもの調べた範囲の資料を今皆さんのお手元にお配りしたいと思えますので、そちらの資料を見ていただきたいと思います。

基本的には、公職選挙法の中で決められておりますので、地方議会については、立起表明を本会議場では行えないということになっております。

○座長（斎藤 實君） 暫時休憩をして、少し読んでいく時間を作りたいと思えます。

<<休憩>>

<<再開>>

○議員（大久保健一君） 直接的に書いてるのは、何番目なの。

○議会事務局長（野口義人君） 皆さんの2ページ目で設問が出てまして、一応設問事例の場合、あえて立候補者の所信表明を行うのであれば、議長選挙を行う前に本会議を休憩し、本会議場で行うか、全員協議会等の場を持って行うこととするほかはないものとする、ということでこちらは公職選挙法と標準会議規則の中で謳われている部分を解釈した中での取り扱いということになります。

○議員（赤井睦美君） ということは、本会議場でいくらやっても休憩だからそれはYouTubeには流れないということですね。

○議会事務局長（野口義人君） 基本的には休憩時間中は、本会議場での運営と同様にその部分は削除するということでしょうか、映像配信はできてないという時間帯になります。

○議員（三澤公雄君） ライブは、映像で流す立起表明できないということだけど、全協でやる立候補表明は音声録ってるから文字起こしはできるよね。そのことをさ、例えば広報等で伝えるっていうことは何か縛りがあるの。

○議会事務局長（野口義人君） はい。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（野口義人君） 最大限一応努力して、今言ったとおり会議録の部分は、公表できるものという解釈になりますので、後からってということになりますけど、例えば議会広報の12月号にその部分だけ抜粋して明記することは可能です。

○座長（斎藤 實君） 他、ありますか。

○議員（大久保健一君） 確認なんですけど、選挙方法は記名式、無記名式はどちらでしたか。

○議会事務局長（野口義人君） 無記名式です。

○座長（斎藤 實君） 他ありませんか。

○議員（三澤公雄君） 今の質問に対しての答えの根拠も、公職選挙法とかに準じているの。

○議会事務局長（野口義人君） 準じて、この資料にも書かされていたかなと思います。

○座長（斎藤 實君） 他ありませんか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） それでは、この件について質疑を終結いたします。初議会の議事と進行予定について、これにご異議ございませんか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） ご異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

次に、議長及び副議長の立起表明ですが、まず議会人事の取り扱いについて、事務局より説明願います。

○議会事務局長（野口義人君） 座長、局長。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（野口義人君） 議長・副議長の立起表明の前に、資料2の議会人事の取り扱いについてをご覧いただきたいと思います。

この正副議長の決定の流れと、常任委員等の決定の流れは、各々平成29年6月9日開催の全協と、令和元年8月8日開催の全協ですでに協議されている内容でございますが、今一度ご確認をお願いしたいと思います。

まず、正副議長の決定の流れですが、最初に議長へ立候補する方から表明をいただき、その後、議員の皆さんからの意見をいただき、調整を行っていただきたいと思います。

次に、副議長についても同様の流れで行っていただきたいと思います。仮に調整が見つからない場合は、全員協議会を休憩し、会派代表者会議に移行して協議することとなり、その後、全協を再開して、その調整結果を報告するという流れになります。このような流れを行い、本会議での正副議長選挙において決定されることとなります。

次に、常任委員、広域連合議員、議選監査委員等の決定の流れですが、会派代表者会議で調整し、その結果を初議会の休憩中に開催される全員協議会で最終確認し、本会議において選任されるという流れになってございます。

以上のとおりでございますので、このあと正副議長の立起表明にあたって、ただいま説明したとおりの流れで進めることとなり、また、常任委員等の決定に際してもただいまの説明のとおり、会派代表者会議で調整する流れで進めることとなりますので、よろしく願いいたします。以上です。

○座長(斎藤 實君) 説明が終わりました。議会順序の取り扱いについて何か質疑ございますか。
(「なし」という声あり)

○座長(斎藤 實君) なければ次に入ります。

それでは、まず議長の立起表明を行います。議長に立候補する方、おりますか。

○議員(大久保建一君) はい。

○13番(黒島竹満君) はい。

○座長(斎藤 實君) 複数おります。五十音順に行います。

それでは、大久保議員からお願いいたします。

○議員(大久保建一君) このたびの議長選挙に、大久保建一、立候補いたします。

皆さんは今回初めて発行されました、選挙広報に自分が何を書いたか、その内容は当然覚えていることだと思います。町を元気に、政策をつくる議会、安心安全の町、動け八雲、あなたの声を町政に。これらは、議員個々の掲げた政策や将来の町の姿ですが、どれもが議員1人の力だけでは実現できません。ある程度の賛同者があり、議会がチームになって取り組んでいかなければ、実現しないものだと私は思っています。私は、そのようなお互いの公約を協力し、実現し合うチーム議会を作りたいと思います。

改選前、広報公聴常任委員会では、自ら手を挙げ、初めて議員のなり手講座を開催することができました。立候補者が増えるということは、自らの選挙が大変になるという、個々人の負担よりも、町の未来のため、それを担う議会のためという大義を掲げ、委員会メンバーの誰もが能動的に考えて進んで役割を担い、全員が講師を務め、素晴らしいチームとして機能的に仕事をしました。その取り組みは、全国的にも大きく取り上げられ、結果的にその参加者から、ここにいらっしゃいます3人の新人議員が誕生しました。

皮肉にも、残念ながらそのチームの一員が落選してしまうということにもなりましたが、我々が目指した選挙のあるべき姿は、達成され、候補メンバーにとって大きな成功体験だったと私は思っています。そんなチームを八雲町議会全体として、自ら考え働くチーム、成長していく議会を作りたいと思っています。

具体的に申し上げますと、1つ目は、デジタル化の促進。これは、これからの必須だと思っています。ペーパーレスを早期に、また計画的に進めます。議員への連絡、議員間の連絡は、ラインやメールを利用し、合理化、スピード化を図っていきます。また、リモート会議を導入し、子育てや入院中の議員、また説明員の負担軽減のために一定条件のもと、委員会へのリモート出席を認めていくよう、規定変更を考えていきます。

2つ目に、広報公聴のさらなる充実。これまで行ってきた議会報告会や一般会議だけではなく、議会のほうから町民の中に入って行く。町民の声を聞くため、出前説明会メニューの中に出前議会説明会を入れたいと考えています。町内会の新年会などに議員を派遣し、そこで聞いてきた町民の声を議会全体で共有して活動に生かしていく、そんな流れを作っていきます。

3番目に委員会活動の充実。報告を受けることが中心だった委員会活動を議員間討議、または条例作戦をチームとして強化したいと考えています。改正前には、文教厚生常任委員会では、委員長、副委員長が積極的にケアラー条例の策定に取り組み、見事に選定いたしました。そのような八雲町に不足している部分を議員自らの目で指摘し、補う条例を作成していく常任委員会をそんな働くチームにしていきたいと考えています。

4番目に議会及び議員の評価。これまでは、広報誌を外部評価してもらおう組織として、議会広報モニターが存在していましたが、議会全体や議員個々を公正に評価する仕組みを考えていきたいと考えています。

我々議員は、確かに選挙という信任を町民から得てこの場にいますが、それは4年間の白紙委任状をいただいたということではないと思っています。自らを律し、町民の願いを1つでも多く活動に反映させていくため、真摯に町民からの評価を受け入れ、改善していく仕組みを考えていきたいと思っています。

以上、これがすべてではありませんが、私の考えている議会の姿を申し上げました。そんな議会の姿に共感し、共に向かっていきたいと考えてくださる議員は、ぜひ投票をお願いいたします。以上です。

○座長（斎藤 實君） 次に黒島議員お願いいたします。

○議員（黒島竹満君） 皆さんおはようございます。ただいま、八雲町議会議長候補に立候補いたしました。皆様方に立候補のご挨拶をさせていただきます。

私は、平成21年に議員に初当選をいたしました。それから議員として、今後の議員活動は第一職業として考えてまいりました。自分がこれまで一筋でやってきた仕事は第二、議会活動が第一として考えてまいりました。町民のために動いて働いていきたいという思いを持って4期16年、私の大事な支持者、そして先輩議員や同僚議員にお世話になりながら今日まで来ております。私は力強い八雲町を目指し、議員として頑張ろうということで立候補をしてきております。そういった部分を今後、話し合いながらしていきたいと思っています。

私の考え方と 생각이 3点ございます。1点目は、八雲町議会の議会改革でございます。開かれた議会、わかりやすい議会と議会改革をさまざまな部分で改革をしてきたと思っています。しかしながら、この議会改革が町民の皆さんにどのように伝わっているのか。そしてまた、町民の理解を得られているのかを考えたとき、まだまだ議会改革が必要だと思っています。

私をはじめ、それぞれ14人の議員の皆様方には、いろんな考え方や思いがあると思います。昨日、皆さんの考えや思いを議会の改革にしっかりと受け止め、話し合いをし、今後の八雲町の議会

改革をしていかなければならないと考えております。本当にさまざまな、これからの改革があらうかと思えます。それに向かって、前例前進を向けていきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

また、2点目でございます。今、八雲町で大変大きな課題になっていると考える部分があります。それは、八雲総合病院と熊石国保病院の赤字経営の問題だと思っております。議会として、この大きな問題をどのように解決をしていくか、今後 14 人の議員がしっかりと話し合っていかなければならないと考えております。

今後、議会と行政が一体となって、この赤字対策を考えていかなければならないと思っております。赤字を防ぐために、何をやるかを考えていきたいと思っております。また、任期満了で退任いたしました岩村町長が努力をして、基金を 150 億以上積み上げて退任をされております。その努力と経緯に感謝を申し上げる次第でございます。この基金を病院に充当すると、7年か8年でこの基金がなくなると私は感じております。

議会として、早急に議会運営委員会や専門調査チームをつくり、病院院長ならびに病院関係者と話し合いをし、課題点を出し合って、設置者であります町長に提案をし、病院関係者ならびに議会全体で考えていかなければならない時期だと思っております。少しでも赤字を防ぐために、今こそ議会が動かなければならない時期だろうというふうに思っております。

それと3点目でございます。今日、萬谷町長が誕生いたしました。萬谷町長が提案した町民が主役のまちづくり政策として、立候補予定をした段階で、萬谷町長を誕生させるために、ここに出席している多くの議員の皆さんが町長は萬谷と応援し、選挙活動、そして後援会活動に協力をして、皆さんの声を出してきたと思えます。そのおかげをもって、萬谷町長が誕生いたしました。

これからは、町長の政策や提案が議会に上がってくるはずでございます。上がってきた部分をしっかり調査をし、町民主体の政策なのか、また町民に理解を得られる政策なのかをしっかりと見極め、議会として精査をし、結論を出していかなければならないと考えております。

我々議員は町民に選ばれ、町民の代表であり、しっかりと行政を管理、調査をする立場であります。町民の代表として、その部分を考えていかなければならないと思っております。

この3点を議長の立候補において、ご挨拶とさせていただきます。11月11日に皆さんの投票があります。ご支援とご協力をお願いを申し上げ、まだまだ話は簡単などころがありますけれども、これから皆さんと14人の議員、一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。ありがとうございます。

○座長（斎藤 實君） これより各議員の意見を伺います。意見ございますか。

○議員（赤井睦美君） 質問してもよろしいですか。

○座長（斎藤 實君） はい。赤井委員。

○議員（赤井睦美君） 黒島議員に質問させてもらってよろしいですか。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議員（赤井睦美君） 私たちはさっきおっしゃったように、みんな萬谷、萬谷とは言ってきましたけれども、町長になったら、やっぱり議会と町長ってね、対峙してしっかりと戦わなきゃいけないということも出てくるので、あまりにも黒島さんってぴったりだったなあというイメージがあるんですけども、その辺は議長になったら、ちゃんと議会というほうに足を置いて、しっかりと分けて考えるというかたちはとれるでしょうか。

○座長（斎藤 實君） 黒島委員。

○議員（黒島竹満君） はい。この部分についても、先ほど私の言葉にあったとおり、議員は町民に選ばれた代表でございます。それぞれしっかりと。その辺は私ばかりでなく、皆さんが声を上げて、萬谷というかたちで選挙戦を戦ってきたと思います。私1人でなく、声を出した議員皆さんに、私はあえて、この挨拶の中に入れてさせていただいたところでございます。そういった部分をしっかりとわきまえて、私の仕事として頑張っていくつもりでございます。

○座長（斎藤 實君） よろしいですか。

○議員（赤井睦美君） はい。

○座長（斎藤 實君） 赤井委員。

○議員（赤井睦美君） 大久保議員に質問してよろしいでしょうか。

町民の中の声として、本当に先ほどおっしゃったことは、私もすべて共感しています。本当にそのとおりだと思っています。それで、一緒に活動していても私自身はそういうことは、あまり考え感じないんですけども、やっぱり言い方が素晴らしすぎて、もっと優しくしてくれないかなっていう人は結構多いんですね。

ですから、そういうことをもうちょっとこうアピールできないかなっていう。本当に邁進してくるっていう強さをすごく感じるんですけど、町民に対して、本当にやさしくっていう言い方が適切かどうかはわかりませんが、もっとあったかい雰囲気であれば、もっといいのになという声もあるんですけども。強さを出すとどうしてもね、そこは薄められてしまうと思うんですが、その辺の気持ち的な部分でごめんなさい。お願いします。

○座長（斎藤 實君） 大久保委員。

○議員（大久保健一君） はい。すみません。私も人間なんで、かなり緊張してちょっと気を強めてしまったのもあると思いますけれども。

ただ、これまでもね、皆様に推薦されて、議会報告会で司会をさせていただく機会が多かったですよ。それで、その時はなるべく、議員の皆様に話すような言葉ではなくて、なるべく平坦な言葉では話しているつもりです。今回の話は表明ということなので、割と皆さん、当然それぞれの知識を持っていて、皆さんから信用を受けた議員なので、ある程度ちょっと表現はきつくなってしまいましたけれども、それはそれで、そういう指摘については受け止めて、これからもうちょっと柔らかい表現を心がけたいと思っています。

○座長（斎藤 實君） 他に意見ありますか。

○議員（関口正博君） はい。

○座長（斎藤 實君） 関口委員。

○議員（関口正博君） お二人にお伺いしたいです。先ほど局長からも報告があったように、この新庁舎の問題、新聞報道等ございました。本当に議会として、早急にこの問題には取りかかっているかなきゃならない問題であろうというふうに思いますし、あまり時間をかけた解決というものは、望むべくもないと思っはいるんですよ。

それで、12月定例等もある中で、この問題に対して議会として、どのようなスケジュールで対応していくか、何かきっと議員の皆さんがこの問題はもし対応を間違えたら大変なことになるという部分は、きっと共有していると思うんですよ。そういう部分で、議長としてどういう采配を振るつもりでいるのか、ちょっとお聞かせいただければと思います。

○議員（黒島竹満君） はい。私のほうから先にしゃべらせていただきます。今関口議員から庁舎の問題等がありました。私は、はっきり言って、10億を超えた予算が大手、岩田地崎建設のほうから出されているといいます。その10億をどのようにするかという部分を真剣に考えていかなければならないと思っております。補正で10億を出していいのか、補正でそれを削って、そしてまた新たに、この間いろんな話し合いをしながら来た庁舎であります。

私はもっとシンプルで、もっと金のかからない建物でいいんでなかろうかということで一時止まった部分があります。それができなかった、設計料が高くなるとか、予算がそんなに変わらないとかっていう単純な話だけでございました。もっとやっぱり詰めた中で、予算そして設計。一番構造計算の部分について、もっともっとやっぱりしっかりと、皆さんが理解をして、町民が理解できるようなものをきちっと出していかなければならないのかな、というふうに思っております。

特に、今町長が代わって新しい町長の立場の中で、この補正予算等々をこれからしていくわけでございます。せっかく町民の信頼を受けて、あれだけの票をとった新町長が前の町長とあのまま出てくるのであれば、多分前の町長とは大差変わらないんじゃないかという町民の意見がおそらく出てくるのではないかと、というふうに思っております。

そういった部分を考えれば、ぜひあの建物をもう一回見直してシンプルな建物にしたり、そして、もっと経費のかからない建物にする。そういったことが必要だろう、というふうに思っております。

私はそういった部分をしっかりと議会の中で考え、話し合いをしながら、本当に町民が望むもの、町民が理解できるものに変えていってもいいんでなかろうかなというふうに私は思っております。

財政がやっぱり、今建物の建築工事だけで40数億になっております。電気設備を入れると、おそらく50億、60億を出るのではないかなというふうに思っております。そういった部分を今後議会でもしっかりと話し合いをしながら、本当に町民が理解をできるような、そして、これからの財政をしっかりと考えた中で、やっていかなければならないのかなというふうに思っております。私の思いは、そういうところでございます。

○座長（斎藤 實君） 次に大久保にお願いします。

○議員（大久保建一君） 私の考えを述べます。まず今回、非常に後悔しております。っていうのは、基本設計の段階で、私たちはまだ点数配分というのを知らなかったんですね。プロポーザルの。

それで、その点数配分を後で見たときにはほぼデザイン案で翻ってしまった。今回あまりそういう大きい設計に今まで取り組んできてきたことのない設計事務所が、隈研吾さんの設計監修デザインということで大きく翻ってしまったと、後から知ったんですけどね。だけどそれを選んで、ここまでの工程を我々が正直無知のまま歩んできてしまったってことで、まずものすごい反省しています。

それと、今考えているのは、また今回も時間と我々の決断の対比というか、時間内だから決めなきゃならない。決めなければ今までの設計費用が無駄になる。だけど、そういうことを今までも我々は、悲しいから繰り返してきました。消防署しかり給食センターしかり。今考えると、本当にこれで良かったのかな。ただ、時間の問題。総合病院もそうだし、時間に追われて、もうちょっと考えればよかったのかな。もうちょっと真剣に考えると違った結論が導き出せたのかなっていうのを非常に後悔してます。

なので、今回のことに関しては、時間内にまず決断をするということを目指しますが、それまでに決断が出ない場合は、私は白紙撤回もありだと思ってます。そこまで30年、40年、50年使って

いく庁舎。また、町が大きな借金を背負っていきななきゃならないものだと思っておりますので、みんながみんな納得をする方法っていうのは、見つからないかもしれませんが。ただ、みんなが意見を出し合うくらいの議論は経た上で決定したいと思っています。

○座長（斎藤 實君） 他に、ありますか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○座長（斎藤 實君） 三澤委員。

○議員（三澤公雄君） 今の質問に対しての答弁で、両候補の答弁の中にちょっと疑問があるんで、個々の質問に対して、追加で再質問みたいなかたちでいいですか。

○座長（斎藤 實君） はい。

○議員（三澤公雄君） 黒島議員に対して。新聞報道に対しては、町は原因の特定を急いでおり、場合によっては予定額の見直しが必要になるみたいな新聞の書き方なんで、原因が何だったか。そして、いくら足りなかつたとかっていうのは、情報の中では知り得ないのかなと思うんですけども、まずそのことがどうして今の答弁の中に入ってきたのかということをやっと知りたいんですけど。

○議員（黒島竹満君） はい。

○座長（斎藤 實君） 黒島委員。

○議員（黒島竹満君） 私は、建築のほうで応募しています。岩田地崎が頭になっております。それで、八雲の業者、私八雲のAクラス黒島建設、そしてまた八雲製材。Bからは安藤組と一緒に応募しています。

そして、図面が出た時点でしっかりと見積もりをしたほうがいいよと岩田さんにも言ってるし、八雲製材、黒島にも言ってます。だから、付け合わせて、岩田さんとうちの見積書を合わせたときに、ほぼ一緒な金額が出てきました。その金額が42億円くらいになっております。それで、予算が足りないということで今回は辞退しております。10億ほど予算オーバーです。

その中で、いろんな精査をして町との話し合いをしていると思うんですけども、それはあくまでも頭の業者がやることでサブの業者はそこまで入っていけない。ただ報告は受けてます。それで、金額を知っているところでございます。

○議員（三澤公雄君） わかりました。

○議員（黒島竹満君） それで、あともう一点は補助金の関係で、年内中に契約をしなければ、補助金返還の話が出ています。それで、多分急いでいると思っています。私は、これから現場に入るのは、おそらく3月から4月、今から3月までは準備期間だと思っています。この準備期間の中でしっかりと精査をしてやっていると、工事は後ろに伸びることなく、そして、補助金の返還もなくなると考えています。

だから、しっかりとその辺を設計事務所等々と町が話し合いをして、本当に今の設計事務所がダメだったら、他の設計屋にお願いしても3カ月くらいあるとそのへんは設計変更なり、大きな変更がないわけですから、多分今の設計を表側なり金のかかるところを削ったりしてやっていれば、もっと金額が下がるのではないかなというふうに思っていますので、そういうふうに岩田地崎のほうにも言っております。そういう提案をぜひしてください、ということをおっしゃっています。

○議員（三澤公雄君） はい、わかりました。応札した業者から来る根拠のある推測だったということがわかりましたけれども、今は質問に対してそういう答えがありました。

大久保議員の発言の中で、僕の中の理解での事実と違うのかなと思うものはいくつかあるんで、ご質問しますけど、時間が迫られた中で今回も考えなきゃいけない。先ほど黒島委員が答えた部分でも、その部分は理解しなきゃみんないけないんだなという促しだと思うんで理解できますけど、そういうようなことが過去にもあった。それで時間が迫られる中で、我々は間違っただけの決断をしたかのような発言の中で、消防庁舎と給食センターだとかがありましたけれども、あと後段で医師宅っていうのがありました、(聞き取り不能)。それでね、医師住宅は間違いなくそういった時間を。

○議員(大久保健一君) 医師住宅は俺言っていない、総合病院。

○議員(牧野 仁君) 言っていない。

○議員(三澤公雄君) 病院って言ったの、ごめんごめん。病院の中では、そういったことは僕の記憶の中でもありますけど、消防庁舎と給食センターに関しては時間が迫られたり、僕は判断があつたときの中で誤ったっていう認識はしてないんですよ。

消防庁舎には、今僕たちにとって、地震が噴火湾のほうに津波が入ってくるということは、もうどんな地震でも想定しなきゃいけない事態だったんですけど、あのとき議論していた、僕も含めた議員の中で、津波っていう存在が噴火湾を越えて内陸部に入ってくるっていう現実体験がなかったんで、認識も日本の中でそういうことの想像ができなかったんで、僕は議論が足りなかったという反省はしてない。あの時点では無理だったという理解はしてるんですけど。僕はそうです。

給食センターに関しては、そういった時間に迫られた云々ってことはなかったと思うんですけど、改めて再質問としては、大久保議員に僕はそういう認識ですけど、大久保議員はたとえその時点に立ち返ったとしても、もっともっと広く知見を14人もいるわけだから、もった議員がいれば、やっぱり津波の予見とかもあの立地場所ではすべきだったという認識でしょうか。

○議員(大久保健一君) すいません。今俺これ緊張して間違っただけのもあるんですけど、一番最初にまず言いたかったのは、総合病院だったんですよ。それで、間違っただけ消防署って言っちゃったんですけど、私が一番後悔しているのは、まず総合病院。

それで次、給食センターなんですけど。ただ消防も今考えれば、私自身は反省しています。あの時に知り得なかったから、議論が足りなかったっていうことは、ごめんなさい、なかったかもしれないです。ただ今現在の私としては、間違っただけ判断が少しあつたんじゃないか。もうちょっと私も思慮深く考えればよかつたんじゃないかなっていう反省はしております。

○議員(三澤公雄君) わかりました。

○座長(斎藤 實君) 他にご意見ありませんか。

○議員(関口正博君) ごめんなさい。

○座長(斎藤 實君) 関口委員。

○議員(関口正博君) すみません、長くして申し訳ないですが、黒島さんと大久保さん。両名とも、この庁舎に関しては、もう一回設計そのものをちょすつという考え方のようですけど、これまでも多くの時間をかけて、この問題に関して議論してきました。

議会の方からも、町民説明が足りないんじゃないかという提案のもとで、ある程度合意形成が図られた上で、今ここの段階に来ているんだろうというふうに思っています。

今、金額の問題だけできっと入札等の問題が出てきて伸びているんですけど、本当に広い視野でちゃんと見なきゃならぬ、現状のまま建てていくためには、どうしたらいいかという部分で、きつと行政側っていうのは、いろいろ議論してるでしょうし。

これで新町長がこれ白紙撤回しますよなら、まあまあそれはいいんですけど、議会としては、しっかりと今まで議論してきたことを踏まえた中で結論を導き出すようなことっていうのをやっぱりしていただきたいな、というのをこれはお願いします。

これまで長く長く議論を費やしてきたものというものを、やはりちょっとは尊重していただきたいなど。その中には、ちゃんと町民の意見というものも、我々は入った上で議論してきているはずなので、もっとこれまでのデザインというものは、ある程度中心にした中で議論が行われることを僕自身は望みます。いろんな考え方はあるでしょうけれどもね。

それはきっと、僕は合意形成が図られて今の段階に来ているんだろうと、金額の問題だけであろうというふうな僕は認識しておりますので、そこはちょっと広く考えていただきたいな。スピード感を持ってだけどね。それはお願いしたいなというふうに思っております。

○座長（斎藤 實君） ありがとうございます。

○議員（大久保健一君） それに関して、いいですか。

○座長（斎藤 實君） 大久保委員。

○議員（大久保健一君） 私に関していえば、もしそういう、回答っていうかな。議論が足りないのであれば、白紙撤回もやむなしとは思ってますけど、すべてのことが考えられるとは思ってますので、それは申し添えたいと思います。

○座長（斎藤 實君） 黒島委員。

○議員（黒島竹満君） はい。

○座長（斎藤 實君） ただ、黒島委員に申し上げます。今、議長候補の範囲であれしていますんで、業者でございませんで、その辺のところ間違えないようにお願いします。

○議員（黒島竹満君） それは十分、私は黒島建設の役員でもないし、外れています。そういった部分を踏まえながら、話をさせていただいております。ただ、その部分については、私も今までの建設の経験上お話をさせていただきます。

関口議員のおっしゃったとおり、町民の合意等と色々な形の中で建物が進んできたのは分かっています。しかしながら、途中でもっとシンプルな方がいいでなかるうかということで、議会で一回持ち上がった部分があります。ただ、その時にしっかりとした見積り、そして設計量、それから計算書がどのくらいかかるのか、しっかりと金額が出てきてなかったはずで、それで、これ以上時間かけていると、どうしても補助金の関係が間に合わなくなるというお話だったと思います。もうちょっとその辺をしっかりと詰めれば良かったのかな、というふうに思っております。

ただ、今の状況からいくと補正を10億出してやるのか、それとも補正を少しでも下げるように、多分町のほうとしても下げる方法は考えているのではないかなというふうに思っております。ただ、業者としては、多分赤字。今の時代、どういう形で材料が高騰しているか分からない中で、仕事をしていかなければならない。それと、人件費も相当上がっていくと思われる。そういった部分を考えると、たぶん予算を積み上げないとやっていけないんじゃないかなというふうに思っております。

だから、そういった部分をもっとやっぱり町側がどの部分を削って、どの部分をどうするか、町側の判断次第でなかるうかなというふうに思っております。これがもし、そのままの状況でやっていければそのままいいと思いますし、予算の中でやっていければいいのかなというふうに思っております。後からのメンテナンスがああ状態であれば、おそらく10年以内に相当金額がかかるとい

う部分があると思いますので、その辺もしっかりやっぱり今後考えていかなければならないのかなというふうに思っています。

ただ、簡単に足場かけで塗装をかけるだけでは済まない。相当その足場代だとか、いろんな部分に金がかかっていくわけですから、そういう部分を考えながら今後やっていかなければならないのかなと思っていました。

○座長（斎藤 實君） ありがとうございます。庁舎の問題は、これ以上二人にお尋ねしても、まずは町側のご意見も伺わなければなりません。ここが最大のポイントかなと。それで、これまで議会としても、先ほど関口議員からお話があったように、いろんな角度から何年もかけて議論してまいりました。

そして、町民合意も取り付ける方向でという議会の意見も町側で真摯に受け止めて進めてきた、これは事実でございます。ですから、これからのことにつきましては、町側のご意見も考え方もしっかり聞きながら、この庁舎の問題、議会としてどう向き合っていくといいのか、それを議会の会議の中で議員さんそれぞれ熱い思いで語っていただき、協議をしながら方向性を見いだしていければいいのかな、とこのように思いますので、この件については、そういう取りまとめでお願いしたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

他に、お二人に聞きたいことはございますか。さまざまな意見がありましたが、ただ座長として、これまでの合意が私はこの場所で決めるのは困難なのかなというふうに思います。この件は、会派代表者会議に一任するのしたいと思います、これにご異議ございませんでしょうか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） ご異議なしと認めます。

よって、そのようにいたします。

次に副議長の立起表明を行います。副議長に立候補する方、おりますでしょうか。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議員（三澤公雄君） はい。

○座長（斎藤 實君） 複数おりますので、五十音順に行います。

それでは、まず赤井議員から立起表明をお願いいたします。

○議員（赤井睦美君） とても簡単ですけれども、今回の選挙 71.75%の投票率でした。前回、町長選がなかったけれども、前回よりも落ちた。けれども、8,594票という方がこの16人の候補者に対して頑張ってくれよということ投票してくれたと思うんですね。

それで私が一期目のときに議会基本条例を作って、議会は変わりますって銘打ちました。本当に変わったと思います。一問一答になったし、報告会もやってるし、議会カフェもやってるし、それから先ほどお話しされたように、条例も提案していくっていう、そんなかたちが取れるようになりました。

けれども、町民から見るとまだまだ議会は何をやっているかわからないって。議員はもっと町民の中に入って、声聞いてよっていう声毎回報告会でも出てきます。それは、やっぱり私たちが自分たちでは、一生懸命変えてきて進んでいるんですけども、まだまだ町民とともにという姿勢が足りないんじゃないかなって思っています。

先ほど大久保議員がおっしゃったように、私たちも議会改革を本当に町民とともに進めていくべきだと思いますし、委員会も報告を受けるだけではなくて、自分たち自身が町民の中に溶け込んで、

そしてそれをちゃんと委員会に反映する。それで、さらに一般質問をやったり聞いていると、あっ、これは委員会で言って、ちゃんと政策として提言した方がいいなっていう一般質問もたくさんあるので、今後そういうことをちゃんと取り入れながら、大久保さんの言葉を借りると、チーム議会でちゃんとした町民の声を形にしていけたらいいなと思っています。

それともう一点は、先ほど庁舎のお話もありましたけど、私は専門家でもなんでもないので、その価格をどういうふうに下げるって言われてもよくわかりません。けども、この14人の中には、それぞれ専門の方がいらして、農業には農業に通じている方もいるし、建築の方もいるし、サービス業の方もいるし、それぞれの業界から出ているそういう知識をしっかりと議会に生かして、本当にチーム議会でよりよい議会を作っていきたいと思っています。

それで、これからも軸足はしっかり町民において、町民の声をしっかりと受け止め、それを私たちが生かすことによって、八雲町全体が幸せになる、そんな議会活動を目指していきたいと思えます。皆さん、一緒に頑張りましょう。よろしくお願いいたします。

○座長（斎藤 實君） 次に、三澤議員お願いいたします。

○議員（三澤公雄君） はい。皆様が持っている副議長の役割というのは、調べてみたら載っているように、議長が欠けているとき、欠席や出張等に代わりに議長席に着くと、そういう役割が明記されていますけれども、私の持っている副議長のイメージは、まさしく今、赤井さんのほうから言われたように、チーム議会をつくるために議長にとって、普段の議事進行やいろんな行動の中に何か不足していることがあったり、言い足りないことがあったりしたら、即座にサブとして、副としてそれを補っていく。

とにかくチーム議会をつくっていく上で、リーダーシップを発揮する立場の議長に欠けているものがあれば、すぐさま補っていく。それくらい議長とは、議長の考えていること、言わんとすることをまずしっかり把握するということが大事なんだろうけれども、それもやっていきますし、チーム議会にとって、そのピースとしてしっかり役割を果たす役職だと思っています。

それと1つ、この中で僕は唯一皆さんと違う経験をしていることを挙げるとすれば、私は体を張って議長を止めたことがございます。そのことは、副議長の立候補のときには、改めて皆さんに知らない人もいると思うのでね、認識してもらいたいですけども、議長として足りないところが多すぎたり、行き過ぎたりしたときには、私はあのときはその方法がベストだと思って、不信任動議を提出しました。若気の至りっていう経験だったかもしれませんが、僕が目指す副議長っていうのは、チーム議会をつくるために、その一員となって一丸となってやっていく。ピースとして。議長を支えるために、誠心誠意尽くしますが、もし勇めなきゃいけないときは、もちろんまずは言葉で行動で分かってもらおう努力はしますが、場合によっては、先ほども言ったような行動も経験上やってきてますので、その辺で違いをアピールしようかなと思ってました。

とにかくチーム議会にとって、そして、それが町民に信頼される議会づくりを目指していく。その方向に進んでいる限り、私は全力で与えられた職務席を全うしていく覚悟です。よろしくお願いいたします。

○座長（斎藤 實君） これより、各議員の意見を伺います。ご意見ございませんでしょうか。

○議員（大久保健一君） はい。

○座長（斎藤 實君） 大久保議員。

○議員（大久保健一君） 赤井さんに聞きたいと思います。町民の声を聞くというのは、私と共通してあれだったんですけど、何か具体的な考えというかな。こういうふうにやったらいいんじゃないかという策をお持ちであれば、披露していただきたい。

○座長（斎藤 實君） 赤井委員。

○議員（赤井睦美君） 今、ここでこういうことを言っているのかどうか分からないんですけど、ダメだったら止めてください。今回、萬谷町長が出産祝い金ということで、1人目20万、2人目30万、3人目50万。私その根拠もわからないし、なぜお金なのっていう。

それで、たまたま木育の時とか、議会カフェっていうことでアンケートをとりましたけれども、やはり子育て中のお母さんたちが望んでいるのは、そういうことではない子育て支援だから、本当に私これから一般質問でそのことも追及したいなと思っているので、やっぱり常にアンケートを取るとか、それから何かの集まりがあったら入れてもらって声を聞くとか、それから高齢の方でもいろんな団体に属している方たちが一度聞いてよっていうことも今回結構あったんですね。

だから、そういうところにちゃんと出て行って、高齢者が高齢者の支援。こっちが考えていることが本当にそれでいいのかという確認もしたいし、そんなふうアンケート調査や直接話したり、そういうことをしながらやっていきたいと思っていて、また議会カフェも議会カフェっていう名前がいいのかどうか分かりませんが、定期的にやっていきたいと思っております。

○議員（大久保健一君） 三澤候補も選挙のパンフレット自体は、町民の声を聞くということが書いてたので、もし同じような質問であれば。

○議員（三澤公雄君） よかった。赤井さんについて言われたんで、僕は答える権利ないのかなと思ってたんで、嬉しいです。

確か赤井さんの言ったことですけども、僕はあえて短い言葉で言えば、当事者抜きで当事者のことを決めない。そのために、議会がその当事者たちからしっかり声を聞くっていうのは、今回みんなが言ってる議会改革の一番核になることだと思うんでね。そこを欠かさない姿勢を持っていけばね、できると思ってますんで。方法論は、いろんな議員からアイデアを出して、その時その時に合うものをチャレンジして、試行錯誤して。

議員って今でも偉い人って思っている町民がかなり多数人いて、声がかげづらっていうイメージを持たれていると思うんですよ。僕はそういう人たちにあえて見せなきゃいけないのは、僕たちが試行錯誤して苦労している。または失敗して、でももう一度立ち上がって、次の方法を考えているっていう、そういう泥臭い姿を見せて、ちょっと極端な言い方だけど、あ、同じ人間なんだと。普通のおじさん、おばさんなんだっていう。そういうふうにも思ってもらえることも大事なことかな。カッコ悪いことをすることが逆にカッコいいんじゃないかなと思っておりますので、そういうイメージでやっていこうと、このメンバーならいけると思っています。

○座長（斎藤 實君） よろしいですか。他ありませんか。

○議員（倉地清子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 倉地委員。

○議員（倉地清子君） 三澤議員に質問します。

今こうやって話を聞かせてもらっても、三澤さんの話を聞き入れやすいイメージで聞かせてもらうんですが、議長を止めたことがあるっていう時、私はその時いなかったんで状況を見てみませんが、

一期私がやってた中で、すごく熱量が熱い時の三澤さんは、すごくトーンが上がって行って、周りが見えてなさそうに見えるときに私の個人としてあるので、議員の意見を広く聞けるような環境になってもらえればなというふうに思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○座長（斎藤 實君） 三澤委員。

○議員（三澤公雄君） 広く意見を聞いた上で押し出すときは押し出すという姿勢でやってきたつもりですけども、今この場においても、倉地さんがおっしゃったように、人の意見を聞かないようなイメージを与えたとしたら、今日もうすでにもう反省しなきゃいけないのかなと思うんですが。

その当事者がもし分かっていたら、どの言葉が不適切だったのか、どの表現が不適切だったのか、そういうことを具体的に分からないと変えられることも考えられないので、圧がその人と果たして膝詰めの話ができるかは分からないんですけど、僕は自分が変えなきゃいけないことは、変えるのが早道だと思ってますんで、そういう姿勢も分かってもらう努力は重ねていきます。

○座長（斎藤 實君） 他はありますか。

○議員（寺田広樹君） いいですか。

○座長（斎藤 實君） はい。お願いいたします。

○議員（寺田広樹君） 今回の選挙は、八雲町の議会議員選挙ということで、熊石地区も当然入ってまいります。熊石地区の町民は、皆さんがほとんど言うのは格差。こちらの本庁と向こうの格差。

これに対して、赤井議員と三澤議員、熊石の町民に対してこの格差を少しでも埋める対策というか、何かお考えがあれば聞かせていただきたいと思います。

○議員（赤井睦美君） はい。

○座長（斎藤 實君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 私は正直、格差ってあまり感じてないです。それはなぜかという、変な話ね、落部と熊石と同じぐらいの人口でね、いろいろ見ていくと本当熊石は今回ご覧になってわかれると思いますけど、新しい会館がどんどん出来てきました。

そして、備品もちゃんと税金で揃えて、それのおかげで八雲町のほうも町内会の備品は公費で揃えることができるっていうふうになってね。だから、ある意味熊石のほうが充実してきたおかげで、八雲町のほうにもいい影響が。だからといって、どんどん買うとかそういうことはないんですけども、来たなって思ってるし。

今落部のほうは、やっぱり栄浜とか見ると、こんなに廃屋があつてっていう感じはあるけれども、熊石にちゃんと地域の支援員のかたがいますよね。ああいう制度をちゃんと落部にも黒岩にも置くことによって、地域の声をしっかりと聞いてやっていけたらいいなと思うから、私は格差というよりは、熊石がそういうふうに格差があると声を出してくれたおかげで、いろいろなことが先にやられて、それを黒岩でも落部でも導入できたらもっといいんじゃないかと思ってるので、あまり違いを強調するんでなくて、良いところをどんどんお互いに出し合って、それはここでもやっていこうということができるところから始めたいなと思っています。

○議員（三澤公雄君） はい。

○座長（斎藤 實君） 三澤委員。

○議員（三澤公雄君） 僕もね、格差っていうよりも、格差という言葉を使うなら認識にそういう隔たりがある。八雲の人間が持っている意識と、熊石に住んでいる方の意識。

八雲に住んでいる方は、熊石にそういう差別してないっていう意識を持っているし、行政執行、町議会の執行もそうは思っているんですけども、それが届いてないっていうのが今回歩いても分かりました。

なので、今赤井さんがいくつか例を挙げたような事実も知らない部分があるし。だから、情報の撰取の仕方の格差っていうものもあるのかもしれないし、だから、僕たちがやっぱり熊石に、個々の議員は今回選挙でいろいろ入ってるけども、組織として、議会が熊石の意見をしっかり聞くっていう作業を繰り返していかないと、虐げられているっていう意識を持った人たちには、心を閉ざしてる部分もあると思うんでね。本当に言葉を尽くして事実を伝え、そこから来るイメージの違いなんかも、その都度その都度上手に広げ上げて、それでもなおかつ、本当に足りないものは、彼ら彼女らの口から聞けるかもしれないし、それは僕たちの新しい気づきでもあるわけだから、実際にそういう格差意識を持っている人たちがいるという前提で、熊石の住民の方たちと接して、そのことをやることによって少しずつ解消していくのかな。

だから、僕たちのアクションで、その格差意識を持っている方々の閉ざされた心を溶かしていくという作業が不可欠だという認識はしています。

○座長（斎藤 實君） よろしいですか。他にありますか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） まあ、いろいろなご意見があることは承知しますけれども、今会議を進めるにあたって、この場所でどちらにということとはなかなか困難なのかなということで、この件につきましても、会派代表者会議に一任するとういたしますが、これにご異議ございませんか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） ご異議なしと認めます。

よって、そのようにいたします。

ここで会派代表者会議に一任した件について、会派代表者会議を開催するため、休憩いたします。お願いします。

○議会事務局長（野口義人君） なお、会派代表者会議ですけど、今当事者となる人が相当数出ていたという結果なのです。会派の会議が果たして成立できるのか。座長は一任するという言葉は言ったのですけど、その調整が微妙なのですよ。

○座長（斎藤 實君） ただ、会派がどれだけあるのか。その代表者が誰なのかという情報を僕ら持っていないからね。

○1番（赤井睦美君） そうですよ。

○5番（関口正博君） 一回やってもらって。当然中身はわからないから。一回集まっていたいで、それをどうすることをまずそこで決めてもらって。

○座長（斎藤 實君） そうだね。とりあえず集まって、まず協議してみる。

○議会事務局長（野口義人君） だから、その当事者となる方は、会派の確かに代表者なのですが、そこは出席できないということになりますので、副代表かその他の方が参加するということになります。

○4番（大久保建一君） そうしたら、本人以外が出ると。

○議会事務局長（野口義人君）　そうです。入れません。ですからメンバーがそういう編成になることから、斎藤座長に、引き続き会議での進行役をお願いしたい。立ち位置中央でお願いします。

○座長（斎藤　實君）　入るのですか。僕入りたくない。

　今、会派代表者それぞれ候補者がなっているところもあるので、そういうところは誰か次の人を出していただきたい。

○議会事務局長（野口義人君）　代表、もしくは副代表なのですが、今当事者になっている方はすみませんが、それを除いた方で、会派の代表代理者に選任していただいて、顔出していただければと思います。

○座長（斎藤　實君）　そしたら、一つずつ聞いていってくれる。

○議会事務局長（野口義人君）　じゃあ、まず人数がちょっと多いところで、和醸良政会、現在5名の会派でございます。代表が黒島議員でございます。副代表が安藤さんということなので、当事者と今日欠席の人なので、それ以外の方を出していただきたいということでございます。

　そして、新風会さんの方も大久保議員さんが今当事者になりますので、副代表の関口議員さんが出ていただきます。あとは、春夏秋冬の代表は宮本議員ということなので、宮本議員さんがそのまま出席していただきます。最後、元気の会派は2人構成で、赤井議員さんが今当事者になりますので、新人さんになりますけど水野議員さんに出ていただきたいと思います。

　そういう編成で会議を開きたいと思いますので、第二委員会室に。

○議員（黒島竹満君）　うちの会派は横田さんしかいないから、横田君お願いします。

○議会事務局長（野口義人君）　じゃあそれ以外の議員さんは、一応、会派代表者会議の結果を待つということよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○座長（斎藤　實君）　休憩してますんで。

○議会事務局長（野口義人君）　じゃあ、何分休憩しますか。

　35分からすいません、第二委員会室にお集まりください。

<<休憩>>

<<再開>>

○座長（斎藤　實君）　休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

　今いろいろと協議をしてまいりましたけれども、30日木曜日まで各会派でもう一度、合意形成を図っていただき、そして、会派の考え方としてもう一度協議したいということですので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。何か立候補しているかたから。

○議員（三澤公雄君）　30日まで協議っていうことは。

○座長（斎藤　實君）　いえ、30日の日に。

○議員（三澤公雄君）　30日にちょっと会議があるっていうことね。

○議会事務局長（野口義人君）　30日午前10時から会派代表者会議の2回目を行いますので、それまでに会派ごとに何か方向性を詰めた中で持ち寄っていただいて、会派2回目の会議の中で方向性の合意形成を見出したいと思っております。

それを受けて、1時間くらいで会議を終えて、全員協議会を午前11時予定ということで、会派代表者会議が終わり次第、全員協議会を改めてこの場で会派代表者会議の方向性、結論をこの中で報告して、皆さんの合意形成を得るという流れを構築したいと思っています。

○座長（斎藤 實君） よろしいでしょうか。

○議員（大久保健一君） そしたら、その時はまた今回と同じく当事者を抜かした会派代表者会議って考えていいですか。例えば、私とかは11時までに来ればいいということですか。

○座長（斎藤 實君） はい。そうですね。

あと、ご意見ありますでしょうか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） それじゃあ、今日はこのへんで。

○議会事務局長（野口義人君） 座長、すみません。その他のほうで。

○座長（斎藤 實君） それじゃあ、次長のほうから。

○議会事務局次長（藤原悟史君） すみません。それでは、事務局から一点だけご報告させていただきます。

先週の火曜日に、前千葉議長が事務局の方に来られました。それで、町長の給料50%削減の発言について、前議長の方から、考え方、思いについて、現議員の皆さんに伝えたいことがあるということで書面をお預かりしておりますので、これから配布させていただきます。後からお読みいただきたいと思います。

○議会事務局長（野口義人君） 持ち帰って見ていただければ。

○座長（斎藤 實君） それじゃあ、これで終わります。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 一応皆さん念のため、写真撮影は明日から28から29日の間で伊藤写真館でお願いします。

[閉会 午前 12時01分]